

# 令和2年度 千葉県総合教育センター懇談会

## 1 千葉県総合教育センター懇談会について

### (1) 懇談会について

千葉県総合教育センター懇談会運営要項 ————— (別紙1)

### (2) 懇談会委員について

令和元年度千葉県総合教育センター懇談会委員名簿 ————— (別紙2)

## 2 令和元年度懇談会について

### (1) 目的

千葉県総合教育センターが以下の主要事業について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について、内部評価（自己評価）を実施し、その結果の公表・説明により説明責任を果たすとともに、センター懇談会委員からの理解と助言を得て、効率的・効果的な行政運営に向けて改善を図る。

#### 【4つの主要事業】

- A 調査研究事業
- B 研修・能力開発事業
- C 学校支援事業
- D 教育相談事業

### (2) 懇談会の概要について ————— (別紙3)

ア 第1回懇談会概要（令和2年6月18日実施予定）

イ 第2回懇談会概要（令和3年2月 2日実施予定）

## 千葉県総合教育センター懇談会運営要項

### (趣旨)

第1条 これは、千葉県総合教育センター懇談会（以下「懇談会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

### (業務)

第2条 懇談会は、本センターの主要事業の目標及びその実現のための具体的な取組について説明し、理解と助言を得ることを目的とする。

### (組織)

第3条 懇談会の委員は、次の各号に掲げる者をもって充てる。

- (1) 教育界における学識経験のある者
- (2) 学术界及び文化界における学識経験のある者
- (3) 産業界及び勤労界における学識経験のある者

### (会長及び副会長)

第4条 懇談会に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める。

- 2 会長は、会務を総理し、懇談会の議長を務める。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、その職務を代理する。

### (召集)

第5条 懇談会の会議は、会長の意見を聞いて所長が召集する。

### (庶務)

第6条 懇談会の庶務は、千葉県総合教育センター職員が処理する。

### (委任)

第7条 この要項に定めるもののほか、懇談会の運営に関し必要な事項は、懇談会が定める。

この要項は平成25年4月1日より施行を開始する。

## 別紙2

## 令和2年度 千葉県総合教育センター懇談会委員名簿

| 氏名                 | 所属   |
|--------------------|--|
| おおき ひろし<br>大木 弘    | 千葉県都市教育長協議会 会長<br>(印西市教育委員会 教育長)               |
| まきの けいいち<br>牧野 敬一  | 千葉県町村教育長協議会 副会長<br>(白子町教育委員会 教育長)              |
| うちだ じゅんいち<br>内田 淳一 | 千葉県小学校長会 副会長<br>(山武市立成東小学校 校長)                 |
| いとう たかし<br>伊東 隆    | 千葉県中学校長会 副会長<br>(銚子市立銚子中学校 校長)                 |
| やじま よしふみ<br>矢島 義文  | 千葉県高等学校長協会 監事<br>(県立幕張総合高等学校 校長)               |
| こんどう あきのり<br>近藤 明紀 | 千葉県特別支援学校長会 副会長<br>(県立我孫子特別支援学校 校長)            |
| たかき あきら<br>高木 啓    | 千葉大学教育学部 准教授<br>(千葉大学)                         |
| かとう じゅんこ<br>加藤 順子  | 千葉県教職員組合 教育文化部長<br>(千葉県教職員組合)                  |
| こくぼ はじめ<br>小久保 元   | 教育NPOちば 理事長<br>(教育NPOちば)                       |
| はたけやま いちお<br>畠山 一雄 | 一般社団法人 全千葉県私立幼稚園連合会 会長<br>(学校法人畠山学園はまの幼稚園 理事長) |
| わたなべ しげき<br>渡部 茂樹  | 一般社団法人千葉県経営者協会 専務理事<br>(一般社団法人千葉県経営者協会)        |

## 令和2年度 千葉県総合教育センター第1回センター懇談会 概要

日時：令和2年6月18日（木）  
午後2時から午後4時まで  
会場：千葉県総合教育センター  
メディア教育棟 大ホール

<出席者>

牧野委員 内田委員 伊東委員 矢島委員 近藤委員 高木委員 加藤委員 小久保委員  
 畠山委員 渡部委員 （欠席：大木委員）  
 櫻井所長 北崎次長 杉倉次長 古市研修企画部長 朝倉カリキュラム開発部長  
 稲川学力調査部長 伊藤特別支援教育部長 菅澤主席研究指導主事 福中主席研究指導主事  
 鈴木康治主席研究指導主事 飯田主席研究指導主事 川名研究指導主事 齋藤研究指導主事  
 清水研究指導主事 山中研究指導主事 土井研究指導主事 糸井研究指導主事  
 中村研究指導主事 鈴木茂昭研究指導主事 小島研究指導主事 内藤副主幹 南迫副主幹

センター懇談会委員からの協議・質問・意見・要望

| 発言者 | 内容（◇：ご質問 ◆ご意見 ○：回答）   |
|-----|---|
|     | <p><b>A 調査研究事業</b></p> <p><b>「1人1台端末環境を生かした指導方法と活用方法の在り方」について</b></p> <p>委員 ◇1人1台端末に係る研究について、令和2年度から始まり令和4年度完了では時間をかけすぎではないか。現場ではもっと早い段階での成果を求めている。</p> <p>担当班長 ○県内各学校や家庭の端末OS整備等状況が異なることから、新しい生活様式や学校教育の在り方を踏まえた研究となるよう、聞き取り調査等の基礎的な研究時間が必要です。県として間違いのない研究を推進していきたいと考えています。</p> <p>委員 ◇整備状況に差があることは当たり前である。教員がICTをいかに使っていくかが課題である。校務支援システムも含め、市町村ごとの導入がバラバラに行われている状況について、県がリーダーシップをもっと発揮してもっと指導してもよいのではないかと。</p> <p>担当班長 ○学校内で教員が、ICTを活用した教育をどのように推進していくかについては、過去にも研究が行われ、センターの研修にも取り入れています。しかし、コロナウイルス感染症拡大に伴い、今求められているのは、学校と学校の外とのつながりです。家庭と学校とのつながりを見据えたオンライン等について調査研究を深めていきたいと考えています。</p> <p>次長 ○これまで蓄積された研究成果は、学校現場に積極的に発信していきます。本研究については、新型コロナウイルスの影響も踏まえて、喫緊の課題と捉えて研究を進めてまいります。</p> <p>委員 ◆ICT環境は市町村によって大きな差がある。全国的に、また県内においても先進的な事例が見られる。これらを踏まえて、県として、広い視野でスピード感をもって進めてもらいたい。</p> |

|      |  |
|------|--|
|      | <b>B 研修・能力開発事業</b>   |
| 委員   | <b>「初任者研修」について</b><br>◇幼稚園の初任者研修は認定こども園の受講が可能なのか。一部、案内が届いていないとの声がある。認定こども園の数は増加傾向である。対応をお願いしたい。  |
| 担当部長 | ○認定こども園についても初任者研修の受講は可能です。本年度も認定こども園、私立幼稚園も含め対象として実施しています。<br>○案内については、関係担当課を通じて発出していますが、念のため確認をします。   |
| 委員   | <b>「社会の変化に伴う今日的課題や本県の教育課題に対応した教職員研修の充実」について</b><br>◇千葉県・千葉市教員等育成指標には、求める教員像に「人間性豊かで、教育愛と使命感に満ちた教員」とある。学校教職員の不祥事について取りざたされているが、不祥事の原因や背景をどのように分析し、どのように研修で対応していくつもりか。     |
| 担当部長 | ○不祥事根絶に関わる内容は、悉皆研修に位置付けており、全ての教員が研修を受けています。教育庁教育振興部教職員課から講師を招いて実施しています。  |
| 次長   | ○分析及び啓発は教育庁教育振興部教職員課が主に行っています。   |
| 委員   | <b>「新型コロナウイルス感染症拡大防止」について</b><br>◇本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、センターとしては思うように研修を進められずお困りと思うが、資料配信という形をとっていただいております、現場としては非常にありがたい。7・8月以降の研修の対応について、現場の先生方が困らぬよう、情報発信を速やかにお願いしたい。 |
| 担当部長 | ○7・8月の研修は、悉皆研修は実施しますが、推薦・希望研修は、夏季休業短縮等の措置をとっている学校の状況を鑑み、子供の学習時間確保を第一優先に考え、延期または資料配信することとしました。個々の研修の対応については、近日中に文書及び当センターWebサイトを通じ、各学校に周知していきます。                          |
| 委員   | ◇初任者研修については、校外研修が来年に繰り越すようなことがあるのか。  |
| 担当部長 | ○資料配信による代替も行い、今年度中に実施します。  |
|      | <b>C 学校支援事業</b><br>(特になし)  |

|   |   |
|---|---|
| <p>委員<br/>担当部長</p> <p>委員<br/>担当部長</p> <p>委員<br/>担当部長</p> <p>委員<br/>担当部長</p> <p>委員</p> <p>委員</p> | <p><b>D 教育相談事業</b></p> <p><b>「特別支援教育相談体制の充実」について</b></p> <p>◇不登校児童が増えている中で、相談件数が減ってきている原因はどこにあるのか。</p> <p>○不登校児童への対応については、子どもと親のサポートセンターが担当しています。</p> <p>○相談件数の減少は、特別支援学校の「センター機能」が高まってきたことが一因として考えられます。これまでは、相談は全て総セ稲毛庁舎に足を運んでいただいていたものが各地域の特別支援学校でも相談が可能となっています。より複雑化した相談ケースについて、県と地域で連携して取り組んでいます。</p> <p>◆様々なところで教育相談の充実が求められており、関心の高い事業である。「気軽に相談できる」「本当に困った時に相談できるセンター」であってほしい。今後もセンターとしての機能をより発揮していただきたい。</p> <p>○（情報提供として）就学前の子供の相談についても、センターで実施していますが、福祉機関においても療育相談体制の充実が図られています。総セとしても、様々なケースに早期から対応できるよう、相談体制の充実を図っていきます。</p> <p>◇特別支援学校や特別支援学級への就学について保護者等の理解を得るために、出張相談や学校支援等の中に具体的な取組があれば教えてほしい。</p> <p>○共生社会の実現が、現在の社会の潮流です。就学についても、保護者の意向を受け止め尊重し、合理的配慮の在り方を考えながら、その子にとって望ましい学習環境について保護者とよく話し合うようにしています。</p> <p>◆広い視野から子供の将来を見据え、一人一人の子供に合った個別指導が受けられる場として、特別支援学級や特別支援学校の良さをアピールしてほしい。</p> <p>◆教育相談について、相談者がセンターや学校に来ることを前提とするのではなく、発想を変えて、例えば、サテライト方式等で、センターが定期的に各地域に出向き、互いに顔を突き合わせて相談活動をするのもよいのではないかと。これは、現在のコロナウイルスの影響を踏まえた新たな研修や相談の体制を考える際のヒントにもなる。</p> |
| <p>委員<br/>担当班長</p>  | <p><b>その他</b></p> <p><b>「新型コロナウイルスへの対応に係る子供たちへの学習支援の取組について」</b></p> <p>◇家庭学習用授業動画について配信数及びアクセス数はどうか。</p> <p>○6月18日時点で、配信数が902本、アクセス数が約264,000件です。学校が再開してからも視聴している児童生徒がいます。</p>  |

## 令和2年度 千葉県総合教育センター第2回センター懇談会 概要

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和3年2月に書面開催

<出席者>

大木委員 牧野委員 内田委員 伊東委員 矢島委員 近藤委員 高木委員 加藤委員  
 小久保委員 畠山委員 渡部委員  
 櫻井所長 北崎次長 杉倉次長 古市研修企画部長 朝倉カリキュラム開発部長  
 稲川学力調査部長 伊藤特別支援教育部長 菅澤主席研究指導主事 福中主席研究指導主事  
 鈴木康治主席研究指導主事 飯田主席研究指導主事 川名研究指導主事 齋藤研究指導主事  
 清水研究指導主事 山中研究指導主事 土井研究指導主事 糸井研究指導主事  
 中村研究指導主事 鈴木茂昭研究指導主事 内藤副主幹

### センター懇談会委員からの協議・質問・意見・要望

| 発言者  | 内容 (●：ご質問 ◆ご意見 ○：回答)   |
|------|--|
|      | <b>A 調査研究事業</b>  |
| 委員   | ◆高等学校に新設される「総合的な探求の時間」や選択教科「理数」、そして小中学校での科学的な探求について充実した学習過程が展開されるよう調査研究に取り組まれている。また、特別支援教育では、知的障害教育における各教科等の指導目標の設定および学習評価のためのツール開発に取り組む等評価したい。また、プログラミング教育の指導法に関する教育用コンテンツをWeb上で公開する予定であることなども評価したい。ネットワークを活用した家庭との連携については、様々な環境の家庭があるので、家庭との連携方法を今後とも研究して頂きたい。 |
| 委員   | ◆1人1台端末が整備され、2021.4～本格的に運用されることから、家庭との連携や活用方法での課題・実践例等を、各学校にぜひ伝えていただきたい。   |
| 担当部長 | ○1人1台端末の家庭への持ち帰りを当分の間、見合わせる教育委員会があることから、機器の管理運用から活用まで様々な事例をとりまとめ、各教育委員会や学校が参考となる資料を提供することが重要と考えており、このことに基づいて調査研究を推進していく予定です。   |
| 担当部長 | ○特別支援教育部で開発したツールについては、今後、調査研究協力校において、実際に協力員の先生方に活用してもらい、改善点等を検討し、改良を重ねていきます。令和3年度末には、完成したツールを県総合教育センターWebサイトに公開する予定です。   |
| 委員   | ◆想定外のコロナ禍に全力で対処されたことに心から敬意を表します。ついては、これを機に調査・研究に対象校を抽出し、センターとのオンライン化を図ってみることはできないでしょうか。新しい形の調査・研究を具体化したものとして、全県下に提案できるのではと考えます。具体化となると、新たな、様々な検討が必要になるかと思いますがー。  |
| 担当部長 | ○調査研究事業における対象校の抽出については、様々な検討事項はあるものの、今後検討していきたいと考えます。オンライン化については、会議や資料の収集・確認など、一部活用を始めているところです。  |

|      |   |
|------|---|
| 委員   | ◆GIGA スクール構想の導入に向け、端末の活用やスキルアップが求められるため、各学校で参考となる資料等の作成を早急をお願いしたい。  |
| 担当部長 | ○1人1台端末の家庭との連携が学校教育の幅を広げることができることから、各校に参考となる調査研究を進めるとともに、教員のスキルアップのために、センター内での研修のみならず、学校や教育委員会の要請に応じて積極的に外部研修を行います。   |
| 委員   | ◆「総合的な探究の時間」や「プログラミング教育」等、今日的な課題に対応した調査研究に取り組んでいただき感謝します。その成果を多くの学校に広めていただくことで、各学校の取組の選択肢が増えれば有り難いと思います。  |
| 委員   | ●調査研究の結果については、多くの学校や先生方の目に触れ、活用されてこそそのものと考えます。このような観点で周知や広報は大事と考えますが、この点で今年度に改善や工夫された点は何かありますか。   |
| 担当部長 | ○調査研究事業の成果をどう現場に還元していくか、広めていくかは大きな課題です。現在は、研究結果をガイドブックにまとめたり、コンテンツに集約したりすることで、現場の先生方がすぐに活用できるような形でその成果を公表しています。また、センターWebサイトで公開し、資料のダウンロードを可能にしています。さらに、研修成果は、センターの研修の中で取り上げ、活用しています。 |
| 担当部長 | ○カリキュラム開発部研究開発班で実施している「出前塾」では、年度途中で事業の再募集を行いました。その際、新たに同部科学技術教育班・メディア教育班の調査研究成果を生かしたコンテンツを増やして研修を実施しました。その結果、現場のニーズに合致し、研修後の満足度も100%という成果を得ることができました。令和3年度の事業から本格的に実施します。             |
| 委員   | ◆「デザインシート」が、子どもたち、教職員の負担とならないようにしてほしい。  |
| 委員   | ●千葉県独自の「デザインシート」（ダブルアクション+1）の活用方法を教えてほしい。   |
| 担当部長 | ○学習指導課によると、児童生徒の「学ぶ意欲の向上」と教員の「授業改善」に向け、自らを振り返り、目標に向けた方策や方向性を見出すことで、学力向上を図ることを目的として活用するとのこと。   |
| 委員   | ●小・中、理科における授業デザインは、どのように各学校に配付するのか。   |
| 担当部長 | ○令和3年度については、検証授業を行う学校に配付する予定です。その後は修正を加えた上で、県内全部の学校に配付もしくはダウンロードの形式で周知する予定です。   |
| 委員   | ●学調のCBT化は、いつ頃になるのか。また、学調2021年において全国で80校あたりがCBTを試験的に使用されるようだが、千葉県内の学校でも試験的に行う学校はあるのか。  |
| 担当部長 | ○「CBT」については、文部科学省の動きを注視している段階です。  |



## B 研修・能力開発事業

委員

◆コロナ禍において、eラーニング、資料・動画配信、双方向のオンライン研修等の実施を進めたことは評価する。同時にアンケートを Web 上で集約し効率化も図れたことはよかったと思う。ただ、リアル集合研修にも良いところがいっぱいあり、「体験の研修や班別協議等」も今後とも取り入れて頂きたい。

委員

◆コロナ禍により今年度の研修等の運営についてご苦労が多かったと思います。一方で、Web やリモートなどの新たな取組なども進んだものと理解しています。是非、今年度の取組の効果や成果を検証していただき、研修のハイブリッド化を進めていただければと考えます。

担当部長

○カリキュラム開発部で実施する研修は、実技や実験・観察などを中心とする研修や参加・体験型の研修がメインです。また、メディア教育班で実施する研修では、令和3年度の研修において、研修のハイブリッド化について、一部実施を予定しています。コロナ禍での安全対策を十分に行いながら実施する予定です。

担当部長

○特別支援教育部が実施する次年度の研修は、二日間設定した研修の初回研修を eラーニングで行ったり、別研修では zoom による講義形式にしたりする予定です。

担当部長

○「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった授業改善が求められる中、教職員の研修においても参加・体験型の研修が重要であると考えています。また、2年目研修では eラーニングで受講した内容を踏まえ、参考にしながら各自が授業研究を行いその成果・課題をレポートにまとめ、集合しての研修で発表・協議を実施するよう計画しています。今後も eラーニングの効果的な活用も含めて、教職員の資質能力の向上に資する研修に取り組みます。

委員

◆研修に臨む研修生にあらかじめ課題をもって研修させていく方向がとられていることは、大変良い方法だと思います。その上で、研修から研究へと進める手立てを具体化してはどうでしょうか。研修を一過性のものとせず、専門性を深めるための目的として探究していけるよう導いていただければ有難いです。

担当部長

○中堅教諭等資質向上研修 I では、「主体的・対話的で深い学び」の視点にたった授業改善に向けて、自己の課題を捉え計画書を作成し自校で検討会から報告会までを実践するとともに、若手教員研修チームのメンターとして自校の研修に参加するようにしています。こういった体験を通して、問題発見力やマネジメント力などの資質能力を育成していきたいと考えます。

担当部長

○これまでは「研究から研修へ」の視点で調査研究を現場に還元することをとらえていました。「研修から研究へ」の視点により、研修生の専門性を高めるという考え方は大変参考になりました。

委員

◆P11「eラーニングを更に拡充し教職員の負担軽減と・・・。」とあるように、今年度は eラーニング等が増えて、移動距離・移動時間が短縮され、子どもに向き合う時間が増えた。次年度以降も、eラーニング研修をぜひ拡充してほしい。

担当部長

○eラーニングにより遠方からの移動の必要がなくなったり受講人数の制約がなくなったりするなどのメリットがあります。次年度は、実施日数及び研修数ともに拡充して実施します。

|      |  |
|------|--|
| 委員   | ◆1人1台端末、クラウド活用することが可能になるため、希望研修も希望者が全員参加できるようにお願いしたい。  |
| 担当部長 | ○一人でも多くの研修希望者が研修を受けられるように工夫して、研修を実施していきたいと考えます。しかしながら、新型コロナ感染予防を考慮した研修定員の削減や実習や実験・観察などの機材・器具などを使用する研修、関係機関や大学等から人数指定のある研修では、希望者全員が参加することは厳しい状況にあります。   |
| 担当部長 | ○eラーニングによるリモート研修と体験や協議を中心とした集合研修の2つを効果的に運用していきます。なお、1日開催の希望研修でも来年度はeラーニングによる実施を計画しています。また、集合研修においても複数組に分けて実施するなど、できるだけ希望に沿えるよう形態を工夫していきます。   |
| 担当部長 | ○令和3年度は、二日間設定の研修において1日目をeラーニングによる事前研修として企画しています。今後も、より多くの先生方が研修できるよう検討していきます。また、希望研修ではありませんが、令和2年度末に、研修用eラーニングとして「特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ」「見てわかる！『個別の指導計画』作成に役立つシート」「教育相談」及び知的障害・自閉症・発達障害・肢体不自由の4障害に係る「障害別基礎コンテンツ」の7研修を県総合教育センターのWebサイトに公開します。この7研修につきましては、現場の先生方に、いつでも研修してもらえよう企画したものです。活用されるよう周知を図っていきます。 |
| 委員   | ◆講師への研修について、異校種にこだわらなくてもよいのではないか。  |
| 担当部長 | ○「講師のための基礎実践研修」は3日間の開催で、その中で授業づくり研修を行います。校種によって内容が異なりますので、実践的な研修になるよう参加する校種の希望により分けて実施しますが、他は共通で実施します。   |
| 委員   | ◆栄養教職員の初任研は月末にあると仕事が立て込んでいますので、できれば月はじめがよい。また、研究発表に関する業務は、勤務時間後になってしまう。(通常業務でいっぱいいっぱい)   |
| 担当部長 | ○初任者研修(栄養教諭)については、専門性が高いことから、学校安全保健課が主催しています。  |
| 委員   | ◆研修のアンケートを無記名にする、Webにするなどすれば、参加者の本音がとれるのではないかと。  |
| 担当部長 | ○受講後のアンケートは昨年度から無記名で実施しています。また今年度よりWebアンケートを導入しました。アンケートについて統計的に処理し個人が特定されないことを周知していきます。   |
| 委員   | ◆事務職員部の「アストラ」運用が来年度から始まる。スムーズに運用されるようお願いしたい。   |
| 担当部長 | ○小中学校の事務職員が次年度よりアストラを活用できるよう準備を進めています。   |
| 委員   | ●研修履歴システム「Astra」の本格運用が始まりましたが、同システム導入の成果や課題について、今後どのように検証していくか、予定はありますか。   |
| 担当部長 | ○今年度より本格運用を開始しましたが、今後も各教育事務所担当者及び各校種での管理職代表者を委員として活用推進会議を年3回開催し、成果・課題を集約するとともに具体的な改善を図っていきます。  |

|                   |  |
|-------------------|--|
| 委員<br>担当部長        | ●P10...スマートフォンを活用とあるが、どのような活用の仕方なのか。<br>○新型コロナウイルス感染症対応のため、クラウド上のコミュニケーションツールを活用し、質問・意見やアンケート結果を受講者全員で即時に共有できるようにしました。                                   |
| 委員<br>担当部長        | ●専門研修について、校内での若年層への助言・指導などの研修はとても大切だが、校外研修は、一日あればよいのではないか。<br>○専門研修では校外研修を2日で計画していますが、そのうち1日は免許状更新講習と相互認定を行います。そのため、過去10年間に講習を受講した場合は免除となります。            |
| 委員                | ◆新研修体系への移行やアストラの活用等、研修について現場の教員に役立つ仕組みを構築していただいたと思いました。  |
| 委員<br>担当部長        | ◆感染症対策の観点から様々な見直しを柔軟に図っていただき、ありがとうございました。<br>○今後も、その時々状況に応じた安全で適切な研修体制の検討を進めていきます。   |
| 委員<br>担当部長        | ◆対面式講習から、通信教育に変更するなど、免許更新講習への対応に感謝する。<br>○今後も、受講生にとって、利便性の高いシステムとなるよう努めていきます。  |
| <h2>C 学校支援事業</h2> |  |
| 委員                | ◆コロナ禍においてセンターへの来所は減少したが、「Wakaba」のアクセス数が増加、CS室広報用PV作成など広報の体制ができたことや、「千葉教育」において総合教育センターのWebサイトからダウンロードでき、読者を増やしていることなど評価したい。                               |
| 委員                | ◆「千葉教育」は、現場サイドのレベルに合った内容であった。  |
| 委員<br>担当部長        | ◆「千葉教育」いつも楽しく拝見している。県内各地の教職員の様子がわかり視野が広がる。<br>○今後は、CS室の運用や「教師力アップいつでも研修」の実施数の増加へとつなげていけるようにしたいと考えます。   |
| 担当部長              | ○「千葉教育」については、読者アンケートを生かし、更なる内容の充実に努めるとともに、広報活動にも力を入れていきます。   |
| 委員                | ◆学校支援事業を通して、それぞれの学校の実情（活用した学校の困り度やこの事業を何に活用しようとしているのか等）が把握できるので、使い方によっては貴重な資料として用いることができます。支援と協働を柱に双方向性を見出していけるのではないのでしょうか。                              |
| 担当部長              | ○学校支援事業を活用する教員や学校からの要望を事前に把握し、講師選定や事業の内容充実に努めています。ご指摘のように、現場の実情の把握は、センターの研修事業や調査研究事業に反映できる資料と考えられます。事業活用後のアンケート等を基に、研修用コンテンツの見直しや必要な機材の購入などを積極的に進めていきます。 |

|   |   |
|---|---|
| <p>委員</p> <p>担当部長</p>                       | <p>◆「教師力アップいつでも研修」について、自己研鑽できるオーダーメイドの研修としてよいものだと思う。年間5件ではもったいない。アストラでも申し込みができるようにしてみたいかがか。</p> <p>○アストラでの申込はできませんが、資料をダウンロードできるように変更しました。アストラで申し込みができない理由は、オーダーメイド研修ということにあります。研修の申込み自体が期間を設けずいつでも可能であることや、研修の実施に当たっては、開催希望日時、研修内容の申請（職印必要）が事前に必要であることが挙げられます。研修希望者と総せ担当職員との1対1の確実な対応が必要であり、研修内容によってセンター職員の中から適切な講師を選定し、研修を実施いたします。今後もこの研修を広く県内に周知し、参加者を増やしていきたいと考えます。</p>   |
| <p>委員</p> <p>担当部長</p> <p>委員</p> <p>担当部長</p> | <p><b>D 教育相談事業</b></p> <p>◆本人や保護者等の背景が複雑化しており月複数回対応しているケースが7件あるなど相談者のニーズにあわせた丁寧な相談対応をしているとのことで、単純な件数減少で判断できないことが分かった。教育センター事業のニーズの高さを維持すべく今後とも丁寧な対応をお願いしたい。自殺企図、DV等緊急度の高い相談の増加にはしっかり対応をお願いします。</p> <p>○今後も、教育相談研修や三部合同研修、部内の所員研修や見立て会議等、多数の研修機会を設定して、所員・相談員の相談スキルの向上を目指して参ります。また、自殺企図、DV等緊急度の高い相談ケースについては、教育相談研修や医療相談、事例検討会等を通して、丁寧で適切な対応を進めて参ります。</p> <p>◆相談事業は、個人の情報が機械的に扱われないようにするため、非常に対処の仕方が難しい分野であると承知しております。そうした中で綿密に対処していただいていることがよく分かります。その上で、相談内容の傾向をしっかり把握し、共通理解を図っていくことは重要です。ここで難しいのは、担当者の交代だと考えます。それとネットワークの使用、ここでは慣れと機械的操作による安易さです。対象者が困っている人であるだけに心のこもった接し方が必要です。専門家の育成と少しでも多くの人材確保に尽力していただいていることに深く感謝するとともに、全県の各学校から希望者を求める等の思い切った手もあるのではと考えます。</p> <p>○担当者の交替については、相談経過等、丁寧な引継ぎを行う必要性を感じています。特に本人や保護者等の背景が複雑化していて月複数回対応している相談ケースや緊急度の高い相談ケース、相談担当者への依存度が高い相談ケース等については、より丁寧な引継ぎをするとともに、担当者が交替しても相談者が少しでも安心して相談できるよう、所員及び相談員の教育相談スキルを高めていきます。</p> <p>所員及び相談員の配置については、小・中・特別支援学校勤務経験や聴覚・知的障害・自閉症・発達障害・肢体不自由・病弱等の各障害種における専門性をもった所員や公認心理師・言語聴覚士等の相談員を配置してもらえよう要望しています。今後も、自身の専門性を生かした教育相談ができるように一人一人、資質向上を目指して参ります。</p> |

|   |   |
|---|---|
| <p>委員</p> <p>担当部長</p>   | <p>◆今年度は、特に、家庭で居場所がない等、精神的に不安定な子どもたちが苦しんでいると思う。多面的、多角的にたくさんの大人の目で見えていくことが大切だと思う。いつも、多様なたくさんの子どもたちを支援していただき、ありがたい。</p> <p>○今後も、本人・保護者の気持ちに寄り添い、相談ニーズに合わせた丁寧な対応を心がけていきます。</p>   |
| <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>担当部長</p> <p>担当部長</p> <p>担当部長</p> | <p><b>&lt;全体を通して&gt;</b></p> <p>◆代替措置によって実施した事業でも評価の下がらなかったものについては、今後も今年度と同様の実施方法で良いように思います。</p> <p>◆今年度は研修等様々な事業が感染症対応で見直しを余儀なくされたことと思います。そのような中、授業動画の配信は大変有り難く思いました。</p> <p>教員の働き方改革が、社会全体の課題となっています。例えば現場では「職員を夏休みにいかに休ませるか」ということに四苦八苦している状況です。既に十分検討していただいていることとは思いますが、貴センター事業も働き方改革の視点で再検討していただくよう、よろしく申し上げます。</p> <p>◆コロナ禍にあって、各事業を推進していくには様々なご苦労があったことと拝察いたします。そのような中でeラーニングや資料配信等により、多くの事業においてAまたはA*の内部評価ができたことが資料から読み取ることができました。所員の皆様のご努力に敬意と感謝を表したいと思います。</p> <p>教員にとって研究と修養に努めることは課せられた使命であり、義務でもあります。一方で「働き方改革」を推進していくことも喫緊の課題となっており、両者のバランスを考慮した研修体系を構築していくことが求められています。</p> <p>本年度から本格運用を開始した「Asttra」やeラーニング機能の更なる拡大と対面での協議等の有用性を精査し、更なる事業の見直しと推進をお願いいたします。</p> <p>◆「業務改善・働き方改革」の観点から、今後も精選等していただきますと大変助かります。</p> <p>○「ウィズ コロナ」の中で始まった新しい研修の形は、「アフター コロナ」の中でも活用できる部分は多いように感じています。それが、「働き方改革」を推進する一助となる部分もあるように思います。更なる研修の見直しと推進に努力していきます。</p> <p>○カリキュラム開発部では、外部機関・大学などと連携した研修事業を数多く企画しています。これらの事業は、相手方の都合もあり、夏季休業中に集中してしまう傾向が強いです。しかし、研修を分散化する取組（情報端末とクラウド活用研修）や研修日数を2日から1日にする取組（高校農業・商業研修）などの見直しも行っていきます。</p> <p>○今後も教職員の資質・能力の向上のため効果的・効率的な研修の実施を推進しています。また、eラーニング等が勤務時間内に実施できるよう配慮します。</p> |

|      |  |
|------|--|
| 委員   | ◆児童生徒の学習支援の授業動画作成について、大いに賛成です。実際での授業動画を作成して同学年での研修機会に活動状況を生かす等、範囲を広められる上、互いの授業の進め方にも具体的に役立ちます。是非、活用の幅を広げていただければと思います。  |
| 委員   | ◆一斉休校や感染症対策等、いろいろな場面での対応に感謝する。特に、休校中での授業をYouTubeで作成され配信したものは、不登校の子どもたちの学習ツールにこれからも活用されると思う。(中身の見直しは、必要だと思うが)   |
| 担当部長 | ○授業動画のサイトの作成、動画の管理、授業動画の作成等、総合教育センターでもこの事業に大きく関わってきました。授業動画の作成は次年度以降も継続予定です。カリキュラム開発部ではこの授業動画を「学生のための教師未来塾」などで、活用できないか現在検討中です。                                   |
| 担当部長 | ○現在、県教育庁特別支援教育課及び各教育事務所の指導主事とともに、小・中学校特別支援学級の児童生徒向けに「見え方」や「聴こえ方」「姿勢の保持」や「言語」「認知」や「コミュニケーション」といった自立活動に関する授業動画を40本作成しています。令和3年度中にYouTubeで公開する予定です。活用されるよう周知していきます。 |